帝都大震災一覧

むざんにやけた　（スルガダイ）ニコライ教堂

八かいから折れた　十二階
あおのけに倒れた　（通三）丸善
やけおちてけがさんを多くした　市内の橋々
ふるいおとされた　屋根瓦
首のおちた　上ノ大佛
焼灰がとんで　水戸まで
効力の薄かった　金庫
裁筋も上った　たつまき
おなかをうめそ都ち　罹災民
一周間あまり　玄米食

時刻　大正十二年九月一日午前十一時五十八分
震源　相州小田原と豆州大島の間ノ海底

つぶれた中に二百五十人　丸ノ内　内外ビルデング
腰を折った　丸ノ内　東京會館
あめのように曲った　鐵道線路
ますます信用をおとした　煉瓦建築
どんぐり返った　九段　品川氏銅像
東京の火事が見えた　岩代　福島から
大抵やけおちた　土蔵
早く借ばった　流言飛語
潮のように入って来た　救護團
大はやりの　かんづめ類

米、英、佛、伊、支、獨、和、七ヶ国　大公使館

本所被服廠跡　死者三万二千五百六十人
吉原公園ノ池　死者八百五十人
橋々のたもと　むすう
川々のきし　むすう

根岸二松軒業

世界上に通信を助けた　無線電信
どこにもかーこにも　たづね人のビラ
又来たとおどろく　餘震
北の氏神さま　神田明神
まっさきにやけた　警視廳
をーいこと　浅草本願寺
すぐに支払って　生命保険金
しんきうにできる　金庫あけ業
七十六万冊をやいた　帝大図書館
避難民にくはれた　上野公園の鴨
大うそであった　江ノ島沈没
急ごしらいの乗合　荷馬車

九月二日　非常徴発令
同　戒厳令
九月七日　流言飛語取締令
同　支払延期令
同　暴利取締令

軍用通信の切い　飛行機
あばれに立つ　立のき札
くるかくると　津浪の噂
南の氏神さま　日枝神社
入ハ地震ソレ火事！　歯科医専学校
をーいこと　築地本願寺
中々支払はない　火災保険金
大道処々に　自轉車パンク直し
二百年来の　湯島ノ聖堂
やけ死んだ　（浅草）花屋敷ノ大象
おもに荷につけ　朝鮮人事件
やねまでのせた　避難流車

著作權所有　不許複製

救援品が届いて　芝浦に山
処々に建った　公設バラック
おひくあぐわれた　火事どろ
火中にやけなかった　住友銀行支店
やけあとに多いもの　やけ瓦にトタン板
道ぶしん　工兵隊
銀行の払い戻し　百円以内
一すおあいた　骨董商
地が二尺さがった　本所方面
無法ものがあった　自警だん
あきつらぞろひ　家主
責任の自殺　山内相生署長
救援電報第一着　北米合衆国
当時品切　煙草ろうそく
大道商人のさきがけ　西瓜すいとん売

不思議に助かった　神田和泉町　浅草寺　元佃島

十月十七日始めて　日比谷野外劇
青天のへきれき　焼残りノ爆破
保護を願ひ出た　主義者
地震にビクトモしなかった　帝国ホテル
くものすの如くやけ下った　電線类
辻々の立番　歩兵隊
郵便貯金非常払戻　三十円以内
大のみ手が多い　美術家
数丈の地われ　宮城前
意外ここ　甘粕事件
ほくほくもの　大工左官瓦屋
立退かずに火を防いた　住友支店庶務課長
九月七日半旗をかかげた　佛蘭西
当時品ぎれ　砂とうくぎ
よしずばりで　しるこ、牛乳店

戒厳司令部
帝都復興審議會

東京市内　肝要な数字
焼けた南北　二里廿八町
焼けた東西　二里
火元　百三十四ケ所
焼失戸数　四十四万七百餘戸
焼死人口　判明ノ分　六万百十人

ひなん者でうつめた　上野ノ公園
なさけ人の為めてする　慰問袋
ソウ言ても　ガス不通薬品切
未曽有に安くなった　野菜类
ちらやみに出る　あやしい女あり
大坂におどしく　長うた師匠
一目に見せるのかし　望遠鏡

東京以外惨害地
全滅　江ノ島、小田原、真鶴、南朝夷、
殆全滅　横濱、横須賀、腰越、茅崎、平塚、熱海、箱根、湯本、下鶴間北条付近、布良、
以上は皆東京以上被害ノ大ナル地ナリ

ひなん者のぐんじゅ　二重橋前広場
助ける神有り　救助米
立のきさきの不便　水切レ停電
公定相場で四十五銭　玄米一升
ふところにだく　禁止写真
田舎かせぎに出かけた　藝妓
ふえたふえた　繪葉書や

正價金拾銭

發賣所　東京市下谷區下根岸町二十五番地　石井方　伊勢辰立退所

大正十二年十月四日内務省届出　同月六日発行　編輯兼発行者　東京市神田區元岩井町十九番地　廣瀬正雄　印刷人　東京市下谷區坂本裏町六　蔡文堂　中村有注